

もっと知ろう “陶”

13、陶のお寺

日本では、江戸時代の寺請制度（個人を寺の檀家であり、異教徒でないことを檀那寺が証明する制度）の影響で、生まれた所（住んでいる所）の寺の檀徒になるのが一般的です。

陶には京都の妙心寺を本山とする臨済宗妙心寺派の猿爪宝昌寺、・大川林昌寺と福井県の永平寺を本山とする曹洞宗（そうとうしゅう）の水上浄円寺という三つの寺があります。

各寺の創建は大川林昌寺が 1490 年、猿爪宝昌寺が 1636 年、水上浄円寺が 1685 年です。各寺は、江戸時代には寺小屋として村の子供に対する教育も担いました。

臨済宗も曹洞宗もともに禅宗です。東濃地方では、古代まで天台宗系の寺院（桜堂薬師、飯高万勝寺など）が多かったのですが、鎌倉時代の守護土岐頼貞は臨済宗に帰依し、室町時代の鶴ヶ城主土岐頼元は曹洞宗に帰依した影響で、中世以降に禅宗に改宗した寺院も多く、このふたつの宗派の寺院が約 3/4 を占めています。ちなみに、全国的には信者が一番多いのは浄土真宗であり、寺院が一番多いのは曹洞宗です。

臨済宗と曹洞宗の違いは禅の仕方にあるようで、通路に向かって坐るのが臨済宗（師と禅問答をする）、壁に向かって座るのが曹洞宗（ひたすら禅を組む）です。平和を願う心、報恩、供養など教えはほぼ同じで、もちろん私たちの接し方にもほとんど差はないようです。

ところで、今年の 5 月 19 日（土）には、猿爪宝昌寺で新住職就任の晋山式があり稚児行列も行われます。化粧を施された子供たちが恵那工会館から寺院までを練り歩きます。化粧をすることで、神様が降臨の目印になるのです。また、子供自身の無病息災を願い、豊かな心を持ってほしいという意味合いが含まれています。

「稚児行列に 3 回参加するとその子は将来幸せになる」という言い伝えは、稚児という短い期間に 3 回も稚児行列の機会に恵まれてラッキーだね！という所から来ているようです



宝昌寺と新装なった庫裡